

「やりました！ きちゃんと洗脳できましたよA様！」

私はA様に中出しされて幸せそうに床に寝そべっているレンちゃんを見ながら胸を張った。

あれ、褒めてもらえと思ったけどA様はなぜか片手で額を抑えて困っているみたい？ え、最初の計画ですか？ レンちゃんを洗脳してオプト・ムーンの怪人にするって話ですよ。ね。

「はい！ 私頑張ってレンちゃんをぐっちゃぐちゃに洗脳して正義の味方のころなんて欠片も思い出さないエッチでけだものな怪人ちゃんに仕立て上げちゃいました！」

にっこりと笑ってA様を見るが、やっぱり不満そうだ。どこがいけなかったのだろうか、ちよつと楽しすぎて時間いっぱいまで使っちゃったけど、きちんとレンちゃんをメス奴隷に調教できたし問題ないよね。すっかり、怪人因子もなじんで頭の上から足の先まできっちり改造されているのに。どうも、犬にしちゃったのがお気に召さないみたい。かわいいのに。

「ええー、いいじゃないですかペット。かわいいでしょ？ ジュエル・スターズ みんなにはまあ、なぜか動物になっちゃったって言えば……」様だってさっきはノリノリでレンちゃんのこと犯していたのに――

会心の出来の洗脳だったのに、とちよつとむくれてみたけどあまり効果はなさそう。

レンちゃんはよくわかってないようでわふ？ つと首をかしげている。とりあえず、かわかったので頭をなでてあげる。

やつぱり、洗脳し直して潜入作戦に使える程度には人格を作り直すみたい。レンちゃんをペットにできると思ってたけど、頑張り過ぎちゃったか――

え、レンちゃん、なんで私を洗脳装置の方に……へ、私も再洗脳ですか？

「やったー！」

最後にA様に催眠で洗脳されて悪の組織の怪人にされちゃったときを思い出して、それだけでエッチなお汁であそこが濡れちゃった。

もう完全にA様に染められちゃったからあれ以降本格的な洗脳ってしてもらってなかったし、もう機会はないと思ってたのですごくうれしい。と、いったらA様は大きいため息をついちゃた。なんでだろ？

レンちゃんも自分で装置に接続されて準備が終わるのを待っている。さっきまで使っていて白濁液に濡れたデイルドやおチンポから精液を絞り出す搾精器、あ、エッチな動きのマニピレーターは初めてだ、はう、どんなふうに責められるか想像しただけで、ん、イっといっちゃった。

「キャン!？」

おまんこ、アナルにぶつすりと大きな機械おチンポが入ってくる。それまでのやり取りでぐつしより濡れていたけど最初からピストン全開でえええええ！？

「ひや、んきゅあ、あゝあゝあゝあゝああー痛つ、ええ！？気持ちいいけど痛い、なにこれえ！？」

「キヤン、キヤン、キヤン!？」

「んんん、ひや？！ 機械おチンポが、んんん、あひゅあ、もういつちやいます！ ああああ、イクのとまりやない！？ ん、んんん、洗脳ザーメンがお腹にいつぱいで、も、もうはいりやないよう……」

「キヤフ、ん、んんん、あああ、キヤン、キヤン、キヤン」

私もレンちゃんもデイルドの機械的な攻めで一気に絶頂までもってかれて仲良く潮を吹いちやっている。

「ふあ！？ え、ええ、乳首が！？ ひゃん、それ初めて！？」

それもまだ序盤だったらしく、今度はマニピレーターといふのかな、機械の手が遠慮なく乳首をぐりぐりとねじってくる。

「んほお?! そんなに引つ張ああああ!？」

遠慮なく引つ張つてくるマニピレーターへの攻めにおっぱいがおチンポになったように痛みと快楽が……ミルク出ちやいそう。

「キャン、え、おチンポが、あふ、それしゅごい!？」

あ、レンちゃんの再洗脳が進んでいるみたいでしゃべれるように残念。あ、ひや！？ わ、私も！？？ 強制的に出てきたおチンポが勃起させられて、見えないけどぬっちよりとした何かが私のおしべちんぽを包んで、ぬっぽ、ぬぽとエッチな音を立ててしごいてりゅう！？

「んひゃああ！ 体中全部一編に責めりやれてえ！？ きもちいい、おちんぽびゅつびゅつてとまらない！！ しゅごい、しゅごいよう。頭真つ白になっちゃう！？ ん、ぽお、んんん……」

あ、お口の中まで機械おチンポに犯されちゃった。喉の奥まで洗脳ザーメンを流し込まれて、体の中全部気持ちよくて……